

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている やや良く なっている	高級レストラン （スタッフ）	来客数の動き	・本州系企業の利用増により前年を超えた。特に夕食は来客数だけではなく、単価も前年を上回った。客の満足度の高いホテルでは、単価の高い本州客の人数が変わらず、売上も前年並みとなっている。一方、道東のある観光地では来客数が前年より減少しており、地域格差が出ている。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・2～3年前と比べると、観光客の入込が増加しており、飲食店にも観光客が流れてくるようになっていいる。来客数も前年よりも増えている。
	変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・観光客が減少しているため、観光客相手の飲食店は全般的に横ばいから前年割れの状態となっている。衣料関係は本社の倒産、個店の閉店、大型店からの撤退などで不振が続いている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・客は慎重に買物している。夏物セールで購入動向をみると、まとめ買いが減り、単品での買物が増えている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・季節商材の売上は昨年とほぼ同様だが、依然として消費者の先行き不安が根強く、買物に対しての慎重な姿勢が続いている。
		商店街（代表者）	それ以外	・7月はバーゲンがあり、夏物の最盛期となる月であるが、今年は日程の関係で前倒して6月からバーゲンが始まったこと、また寒暖の差が激しく、気温の変化に客が付いていけなかったことなどから、全体としては低調に推移した。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・夏物セールの立ち上がりは6月末日に早まったため、7月はその反動減があった。またセール品についても売行きに偏りが強かった。売れ筋は早い段階で在庫がなくなったため、売上に貢献しきれず、一方で人気のない商品は値下率を引上げて単価を下げて動きが鈍かった。客はセール品であっても、購入の際には以前にもまして慎重な判断をしているようだ。
		コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・客は必要以上の商品を買わないように見受けられる。また低温が続いたことで来客数が減少しており、消費に力強さが感じられない。
		コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・売上、来客数ともに前年を上回っているが、以前と比較して弁当や飲料水、雑誌など消費量の多い商品群で売上の減少が続いている。ガソリンの高騰などで、客の日々の節約意識が強く、その意識は変わっていない。
		コンビニ（オーナー）	単価の動き	・前年と比べて単価がかなり下がっている。
		衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・7月は参議院選挙があり、人の動きが落ち着かなかったため、景気は良くなかった。
		家電量販店（店員）	来客数の動き	・気温が上がってきたことでエアコン、冷蔵庫などがよく売れるようになった。前年と比べて来客数も増えている。
		その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（経営者）	単価の動き	・石油製品価格の高止まりにより、一回の購入数量が控えられている。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・7月後半に入り、週末はほぼ前年並みとなったものの、平日は前年割れの状態が続いている。全体では前年から4%の減少となっている。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・今月は参議院選挙があったが、ビールパーティーやお祭りなどで人の動きもあり、昨年よりも幾分か良い傾向がみられた。
		観光型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・宿泊客は増えているが、全体的に単価が伸びておらず、景気の回復感が感じられない。

	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・首都圏を中心に旅行需要が伸びている中、北海道については残念ながら景気回復が遅れており、一向に旅行需要が伸びる兆しが見えない。客の旅行内容、単価、申込状況、いずれをみても回復傾向を感じられない。
	タクシー運転手	お客様の様子	・依然として実車率が低迷している。札幌では各種イベントが催されており、人出はあるが、タクシーはその恩恵を受け切れていないようだ。
	観光名所（役員）	来客数の動き	・気温が低く、ぐずつき気味の天気が続いたことに加えて、参議院選挙も影響したのか、観光シーズンであるにもかかわらず、観光客の動きが鈍い。団体客、個人客とも、同様の状態であり、来客数がなかなか伸びてこない。
	設計事務所（職員）	お客様の様子	・マンションデベロッパーによると、原油高騰に伴う建設資材の値上がりにより、発注予定物件で工事費の折り合いがつかず、着工のめどが立っていないとのことである。不景気の続く北海道の建設業界を支えている札幌でのマンション事業に物価上昇という難題が現れている。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・定率減税の廃止という問題が起きて、消費の動きが止まっている。
	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・本来なら7月は1年間で最も売上があり、活気を呈する月だが、今年に限っては、商品の動きが全般的に良くない。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・北海道全体での売上は、前月から3%の減少となっている。特に衣料品は6月の前年比が106%と好調だったが、7月は気温低下の影響を受け、前年比86%と不振である。6月と7月の合算でも、前年実績には届かず、厳しい状況となっている。なお、部門別の売上は、衣料品が前年比86%、住居用品が前年比94%、食品が前年比99%、テナントが入居している専門店が前年比89%となっており、食品以外は、全国との差異が縮小しないまま推移している。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・7月の販売量を3か月前と比べると12%ほど減少している。前年比も96%と依然として悪い。
	スーパー（役員）	単価の動き	・6月下旬より客単価が低下している。既存店の売上は前年実績を確保しているが、定率減税廃止に伴う税負担の増加で、消費者の購買意識に変化が出ているように感じられる。
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・気温が上昇してこないため、夕方から夜間にかけての来客数が減少しており、売上が低迷している。
	家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・6月は気温が高く、エアコンや冷蔵庫等の夏物商材の需要が増加したが、7月に入ると気温が低くなり、夏物商材の需要が激減している。
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・地域経済の減退による利用減少に加えて、同じエリアでの新規ホテルのオープンによるビジネス客の流出、観光ルートのシフトによる宿泊客の減少などの影響がみられた。
	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・国内ツアー客の入込が減少している。旭山動物園ブームが一巡したのか、道内周遊コースが変化したのかは不明だが、宿泊客数は低調に推移している。ここしばらく上昇機運にあった消費単価もやや勢いを落としている。
	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・函館の観光入込状況を見ると、5～7月に掛けて、3か月連続で前年を下回っており、その影響から当ホテルの宿泊客数も減っている。函館自体の魅力が他の観光地と比較して少しずつ無くなり、競争力が無くなっているのではないかと懸念している。
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	ビジネス客向けのパッケージ商品は順調だが、団体旅行の受注が低迷している。海外旅行については平年並みで推移している。
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・夏休みの旅行需要が、前年比で10%ほど落ち込んでいる。
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・7月の売上は前年比90%となっている。春以降、前年を下回る状況が続いており、苦戦を強いられている状態にある。

		美容室（経営者）	お客様の様子	・客との会話の中で、税金と健康保険の話題が多く挙がっている。特に年金生活者からの不満が多く、消費意欲が低下していると感じられる。
		その他サービスの動向を把握できる者	来客数の動き	・フェリーの乗降客は、5月から3か月連続してマイナスとなっている。特に7月は参議院選挙もあったことから、前年比で11%程度の減少が見込まれている。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・相変わらず販売量が低迷している。特に、大口契約に結びつくような案件が減少している。
	悪くなっている	タクシー運転手	来客数の動き	・7月は天候が良く、雨の日が少ないせいもあるが、昨年と比べてタクシーの利用客が激減しており、売上も大きく減少している。ここ数か月、夜の利用客が減っていたが、最近は日中の利用客も減ってきている。
企業 動向 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	輸送業（経営者）	取引先の様子	・輸送量が増大している。ただその理由については見当が付かない。
	変わらない	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・大都市圏での需要が好調に推移しているものの、地方都市の需要が低迷しているため、全体としては横ばいの状態が続いている。
		出版・印刷・関連産業（役員）	受注量や販売量の動き	・首都圏からの受注が比較的好調だったが、全体としては変わらない。
		輸送業（支店長）	取引先の様子	・コンテナ等の雑荷を主体とした輸出入貨物は堅調に推移しているものの、木材、鋼材等の動きがここにきて鈍化してきた。ただ、石炭については堅調な荷動きを示している。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・取引先の様子、さらに当社の売上の推移等から、3か月前と比べて大きな変化は感じられない。景況感自体も悪くなく、良い意味での横ばいが続いている。
		金融業（企画担当）	それ以外	・設備投資は中小企業によるものが低調であるが、大手製造業の工場新設が下支えている。企業収益は原材料価格の上昇で圧迫されている。公共投資は減少が続いており、建設関連は厳しい。観光関連は好天続きと旭山動物園効果で堅調に推移している。住宅着工は貸家と分譲が札幌市内の用地不足などで減少している。個人消費は雇用環境、所得環境に改善がみられず弱含みで推移している。総じて景気は横ばいで推移している。
		司法書士	取引先の様子	・土地取引関連、建物建築関連とも、低調に推移している。
		その他サービス業 [建設機械リース]（営業担当）	受注量や販売量の動き	・需要、価格などに好転するような動きはみられない。
		その他サービス業 [建設機械リース]（支店長）	受注量や販売量の動き	・中古物件、小額物件などの商材は散見されるが、大型の設備投資については、情報があっても確度が低いように感じている。
	やや悪くなっている	その他非製造業 [鋼材卸売]（従業員）	受注量や販売量の動き	・景況感自体に変化はないものの、受注量の減少や諸手続きの遅れによる発注時期の遅延などから、信用不安が生じる恐れがある。
		食料品製造業（団体役員）	受注量や販売量の動き	・燃油の高騰により、資材価格や運送費の改定を求められる一方で、スーパーや量販店の安売り競争が激しく、製造業ではコスト上昇分を販売価格に転嫁できていない。また受注量が少なくなるばかりであり、大都市圏の好景況感にはほど遠く、企業ぐるみでの出稼ぎ、廃業が増加している。
		悪くなっている	-	-
雇用 関連	良くなっている	-	-	-
		その他サービス業 [システムハウス]（経営者）	取引先の様子	・契約が確定しない。受注案件が無くなるまでとはいかないが、延期になったり、予算が縮小されるケースがかなり増えている。

やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・全体的に求人数が増えているように感じる。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・人材派遣業やコールセンター、病院・介護サービスは好調だが、それ以外の業種は低調という構図に変わりはない。アルバイト系の求人件数は前年比の比較で先月の90%から、今月は95%と改善傾向に向かっているものの、社員系の求人件数については、ここ数か月、前年比90%程度と変わらずに推移している。
	学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・前年度と比較して、採用内定者の状況は良くなっている。具体的には、複数の企業から内定を獲得している学生が増えている。これは内定辞退する学生が多くなることを意味しており、今後、採用予定者を確保できない企業が出てくる。
変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	雇用形態の様子	・今年の春と比べて、求人掲載件数に占める正社員の割合が減少している。現在、全体の1割を下回っている状況であり、逆にアルバイトやパート、請負等の非正社員の割合が増加傾向にある。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・6月の有効求人倍率は前年を0.07ポイント上回っており、新規求人数についても18.9%増加している。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が2か月ぶりに前年比プラスに転じ、新規求職者数が減少したものの、月間有効求人数や月間有効求職者数の改善がみられないため、有効求人倍率の改善が図られなかった。
やや悪くなっている	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・先月は登録者数が落ち込んだが、今月については若年者を中心に、最近では最高の登録者数となった。先月の落ち込みは企業での正社員採用の活発化が要因とも考えられたが、やはり求職活動の中だるみが要因のようであり、8月の休み前に収入を確保したいという求職者側の動きとも読み取れる。ただ、登録者の増加は企業採用の抑制とも読み取れることから、企業業績はまだ停滞しているとみられる。
	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・閉店や工場閉鎖等、事業主の都合による離職者が増加している。
悪くなっている	-	-	-